

本書の目的

本書は、AFP・2級FP技能士試験に最も容易に、かつ、確実に合格するために構成されています。

このテキストをマスターすれば、最も合理的かつ最短に合格圏に入ることができます。

本書の特色・使い方

① 文章は簡潔に、かつ、わかりやすくしました。

少ない時間で全範囲を学習するには、楽に読める必要があります。そのため、本書は、なるべく文章を簡潔に、かつ、わかりやすくしました。

② 図表を多く盛り込みました。

文字ばかりのテキストではなかなか理解が進みません。テキストの内容に合わせた形で、図表があると理解が進むものです。そこで、本書は、図表を多く盛り込みました。

③ 試験に出題されるか、否かの重要度を各事項のはじめに明示しました。

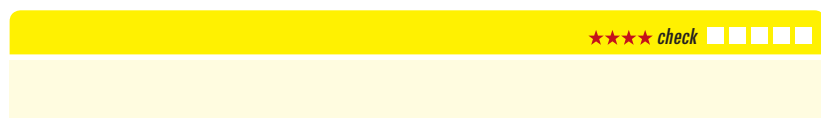
試験にあまり出ないところを一生懸命やっても無意味です。そこで、どこに力を入れて学習すべきかを各事項のはじめに、



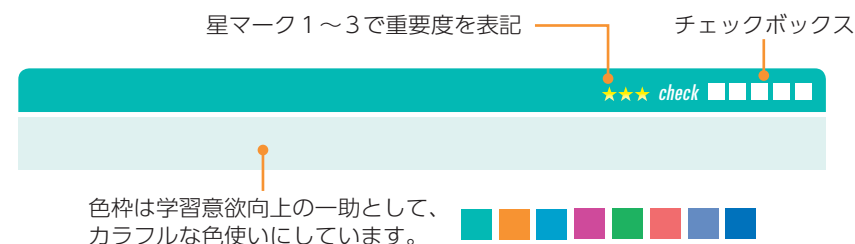
の3段階で示しました。

④ テキスト内の内容にも重要度を示し、確認のためのチェックボックスを設けました。

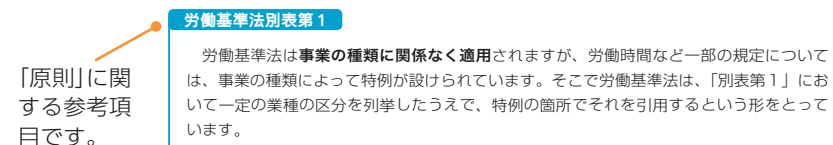
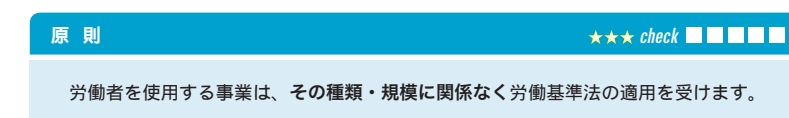
黄色枠で4つ星マークが記してある箇所は、最重要事項です。テキストの本文中や事項の最後にポイントとしてまとめてある場合があります。



テキストの本文中の必須学習項目は、黄色以外の色枠で囲み、1～3つの星マークで重要度を示しています。



必須学習項目に関する参考項目については、同色で下記のように表示しています。



テキスト右ページ上部には、学習日の記録欄を設けました。学習進捗状況などの確認に役立ててください。



テキストの各ページの下に「メモ欄」を設けています。理解しづらい箇所に印をつけたり、メモをとったりする際は、メモ欄にすぐ書き込むのではなく、まずは付箋に書いてメモ欄に貼りましょう。この方法で、テキストを汚さずに、気づいたことを一時的に記録します。次に、学習を進めるうちに不要となった付箋をはがしましょう。付箋をはがすことで、学習が進んだことを実感できます。学習が進んでもなお必要な情報を、メモ欄に書き込み、自分だけのオリジナルテキストに仕上げていきましょう。

本書の利用により、一人でも多くの方がAFP・2級FP技能士試験に合格されることを心より切望します。



★★★★ check

貨幣価値は、見た目の数字（例えば“100万円”）は今も将来も変わらなくとも、内在的価値は時間の経過とともに経済情勢などによって変化していきます。今、手元にある100万円は、10年後、20年後、30年後も今の100万円が持つ内在的価値と同じとは限らないのです。**現在の収入または支出の金額を将来の価値に換算したものを「将来価値」といいます。**



将来価値 = 現在の金額 × (1 + 変動率)^{経過年数}

※変動率（金利等）を乗じて、年数分の複利計算をします。

例) 変動率が2%の場合、現在の100万円は10年後にいくらになるか。
 $100万円 \times (1 + 0.02)^{10} = 121万8,994円$

現在価値とは

将来における収入や支出の金額を、現在の貨幣価値に換算したものです。

現在価値 = 将来価値 ÷ (1 + 割引率)^{経過年数}

※将来の価格を年数分の複利率で割ります。

例) 変動率が2%の場合、10年後の100万円は現在の価値ではいくらにあたるか。
 $100万円 \div (1 + 0.02)^{10} \doteq 820,348円$
 これを「割り戻す」といいます。



notes

ツシフ一表の

A
ゾーン

年

★★ check

通常、1月1日から12月31日を「1年」とします。ただし、教育費などの年度を中心としたプランの場合は、4月1日から3月31日までを「1年」としても構いません。

家族構成・年齢

★★ check

氏名は原則としてフルネームで記入します。
 依頼主が本人となり、その家族は本人から見た続柄を記入します。
 12月末現在の年齢（税務年齢）で記入します。
 子どもがいるケースでは学年欄も設けるとよいでしょう。

金額の単位

★★ check

千円単位を四捨五入し、「万円単位」で記入します。

収入と支出の記入

★★★★ check

収入

可処分所得で収入者ごとに記入します。このとき、定期的収入（給与収入、公的年金収入など）と、一時的な収入（満期保険金・退職金など）を分類したほうがよいでしょう。

支出

- ① 基本生活費.....食費、水道光熱費等の基本的な家計支出
- ② 住居費.....家賃、住宅ローン、固定資産税など
- ③ 教育費.....学校教育費、学校外教育費（塾やお稽古ごとなど）の総額
- ④ 保険料.....民間保険会社の保険料
- ⑤ その他の支出...毎月発生しませんが、毎年決まって発生する支出
例) 帰省費、レジャー費、贈答費用など
- ⑥ 一時的な支出...不定期や単発的に発生する支出であり、ライフイベント表に計上した金額

